

事業評価の結果（共通項目）

福祉サービス種別：障害者支援施設（生活介護）

事業所名：ユアサポートぽっぽ

判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
I 福祉サービスの基本方針と組織	1 理念・基本方針	(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b)	<p>■ 1 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人（福祉施設・事業所）内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p>■ 2 理念は、法人（福祉施設・事業所）が実施する福祉サービスの内容や特性を踏まえた法人（福祉施設・事業所）の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p>■ 3 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p>■ 4 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p>□ 5 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、利用者や家族への周知が図られている。</p> <p>■ 6 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 法人の基本理念、倫理綱領、職員行動規範が作成され、事業所内での掲示や、各種会議等においての読み合わせで、周知度、理解度を上げる取り組みが行われている。 なお、平成25年度には理念の一部改訂も行われている。</p> <p>[検討課題] 理念に基づく提供するサービスの内容については、利用者との双方向での理解が高まると、より実践への反映が容易になると思われる。そのため、理念や運営方針等については改めて周知の機会を設けたり、利用者に対してもより理解しやすいような統一した言葉に変換するなど、周知・理解の工夫も期待したい。</p>
	2 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b)	<p>■ 7 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p> <p>■ 8 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。</p> <p>■ 9 利用者数・利用者像等、福祉サービスのニーズ、潜在的利用者に関するデータを収集するなど、法人（福祉施設・事業所）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。</p> <p>■ 10 定期的に福祉サービスのコスト分析や福祉サービス利用者の推移、利用率等の分析を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 法人の中・長期計画には現状分析・課題・対策等、具体的な構想が構築され、これに基づき事業所として福祉サービスの提供に努めている。</p> <p>[検討課題] 常に福祉サービスの収支、利用率等を分析し経営状況を全職員での共有化とともに、事業所一丸となった利用者が満足できる、福祉サービスの提供とその安定経営に努めることを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b)	<p>■ 11 経営環境や実施する福祉サービスの内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。</p> <p>■ 12 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。</p> <p>■ 13 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。</p> <p>■ 14 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。</p>	<p>[取り組み状況] 経営課題を明確にし、また、具体的に明示することで共有に努めている。そして、課題の解決や改善への取り組みについても周知できる体制があり、その実施も確認できる。</p> <p>[検討課題] 福祉サービス事業所における人材育成、職員配置など、困難な課題も意識しており、その対策及びその成果が期待される。</p>
	3 事業計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b)	<p>■ 15 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。</p> <p>■ 16 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p>■ 17 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p>■ 18 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 単年度計画は法人の職員行動規範に基づく内容で構成されており、利用者の尊重や社会参加、専門的支援が謳われている。 事業報告においては数値化も進んでいるものの、過去との推移が容易にわかるものとは言えない状況である。 なお、移転・新築に伴い、内部環境の整備は徐々にではあるが、積極的に進めている。</p>
			② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b)	<p>■ 19 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。</p> <p>■ 20 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p>□ 21 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p>□ 22 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>[検討課題] 自己評価や年度ごとの振り返り、各種課題を基にした単年度計画の策定、また、そのプロセスへの職員の参画を経て、各自の課題の把握力と理解度を深めるなど、提供するサービスの質を高める組織的・継続的な取り組みでの単年度計画が期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(2) 事業計画が適切に策定されている。	① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b)	<p>■ 23 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p>■ 24 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p>■ 25 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p>■ 26 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p>■ 27 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等が)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 事業計画は施設長、サービス管理責任者を中心に策定され、職員会議で周知に努めている。</p> <p>[検討課題] 活動内容の目的が利用者の人生にどのような効果をもたらすのか、サービス提供の基本理念の理解度を更に上げるとともに、効果を意識した参画型の取り組みで、実践における手立てや幅の広がりが期待できると思われる。</p>
			② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	b)	<p>□ 28 事業計画の主な内容が、利用者や家族等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p> <p>□ 29 事業計画の主な内容を利用者会や家族会等で説明している。</p> <p>□ 30 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、利用者等がより理解しやすいような工夫を行っている。</p> <p>□ 31 事業計画については、利用者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 事業計画そのものについては、利用者や家族への説明は行われていないが、年間行事計画を配布・周知に努めて、取り組み内容の理解を得ている。</p> <p>[検討課題] 事業計画、特に直接利用者本人にかかわる内容については、年度当初に資料を用いて説明するなどして、期待感や意欲、家族や関係者の参加・協力の視点を持った、わかりやすい内容での周知の取り組みが期待される。</p>
4 福祉サービスの質の向上へ		(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b)	<p>■ 32 組織的にPDCAサイクルにもとづく福祉サービスの質の向上に関する取組を実施している。</p> <p>■ 33 福祉サービスの内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。</p> <p>□ 34 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。</p> <p>□ 35 評価結果を分析・検討する場が、組織として位置づけられ実行されている。</p>	<p>[取り組み状況] 毎月の反省会における振り返りで、個々の利用者についての課題などを話し合い、支援マニュアルの改善につなげている。 なお、第三者評価は今回が初めての受審である。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
	の組織的・計画的な取組		② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 36 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 37 職員間で課題の共有化が図られている。 <input type="checkbox"/> 38 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。 <input type="checkbox"/> 39 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。 <input type="checkbox"/> 40 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<p>[検討課題]</p> <p>振り返りにおいて把握した個々の利用者や事業所の課題についての改善が、その後どのように効果をもたらしたのか、記録化して蓄積することで、継続的な改善への取り組みと理解したい。</p> <p>また、自己評価チェックリストの作成と、定期的な実施・活用で、研修計画への反映や全体の質の向上、また、各種取り組みが効果を生み出しているか、後日の検証も容易と思われる。</p>
II 組織の運営管理	1 管理者の責任とリーダーシップ	(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 41 管理者は、自らの福祉施設・事業所の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 管理者は、自らの役割と責任について、組織内の広報誌等に掲載し表明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 管理者は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 44 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における管理者の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>運営規定には、管理者、各職員の職務が定められており、各種の法令順守に向けた研修会などにも参加しているが、事業所全体への周知・理解は今一步と思われる。</p>
			② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 45 管理者は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 46 管理者は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> 47 管理者は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 管理者は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<p>[検討課題]</p> <p>質の維持・向上をどのように取り組んでいくのかなど、広報誌や事業所たよりを通じて利用者・家族に表明したり、労働基準法などの当然遵守すべきものだけでなく、福祉施設職員にとって理解の必要のあるあらゆる法令等の周知に向けた、具体的な取り組みが期待される。</p> <p>なお、不在時における代理等の体制作りは必要と思われる。</p> <p>また、利用者本人のプロセスを重視した意思決定支援ガイドラインの理解を深めるための取り組み体制の充実は期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b)	<p>■ 49 管理者は、実施する福祉サービスの質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p>■ 50 管理者は、福祉サービスの質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。</p> <p>■ 51 管理者は、福祉サービスの質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p> <p>■ 52 管理者は、福祉サービスの質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。</p> <p>■ 53 管理者は、福祉サービスの質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。</p>	<p>[取り組み状況] 管理者は事業所のサービスの質の評価や課題の的確な把握に努め、また、定期的な利用者の顧客満足度調査を実施して、その改善にも努めてもいる。</p> <p>[検討課題] 質の向上につながる研修内容についてはレベルの高いものも多く、その得たものがどれだけ実践につながっているのかなど、検証も必要と思われる。そして、それが法人の理念、方向性に基いたものであり、将来展望を可能とする内容への進捗が期待される。</p>
			② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b)	<p>■ 54 管理者は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。</p> <p>■ 55 管理者は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p>■ 56 管理者は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。</p> <p>■ 57 管理者は、経営の改善や業務の実効性を高めるために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>	<p>[取り組み状況] 定期的な法人の企画会議において、財務、人事等について協議・検討を進め、時代の変化や利用者の重度化・高齢化に伴う対応が進められている。</p> <p>[検討課題] サービスの提供場面の効率化においては、効率化と質の維持・向上の両立を意識して、現場の生の声をどのように活かしていくのか、今後の取り組みを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
	2 福祉人材の確保・育成	(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理体制が整備されている。	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b)	<input type="checkbox"/> 58 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。 <input type="checkbox"/> 59 福祉サービスの提供に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。 <input type="checkbox"/> 60 計画にもとづいた人材の確保や育成が実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 法人(福祉施設・事業所)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<p>[取り組み状況] 職員の人材確保・育成等については、企画会議において積極的に取り組んでいるものの、その効果は少ないと感じる。</p> <p>[検討課題] 実施している職員面談などを基に、事業所の魅力は何かを検討するなどすると、具体的な成果の出る求職者に向けた取り組みも視えてくると思われる。</p>
			② 総合的な人事管理が行われている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 62 法人(福祉施設・事業所)の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 63 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 <input type="checkbox"/> 64 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 <input type="checkbox"/> 65 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 66 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。 <input type="checkbox"/> 67 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。	<p>[取り組み状況] 年2回の職員へのヒヤリングを基にした人事管理が行われている。</p> <p>[検討課題] 職員の職種・雇用形態にかかわらず、法人の理念・経営方針などによる具体的に期待する職員の資質を明文化するなどして、各職員に周知・理解を進めることで、各自の目標設定や研鑽も容易になるとと思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b)	<p>■ 68 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p>■ 69 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p>■ 70 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p>■ 71 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。</p> <p>□ 72 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p>■ 73 ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p>□ 74 改善策については、福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p>■ 75 福祉人材の確保、定着の観点から、組織の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 職員の就業状況や労務管理全般については、法人担当部署が管理している。</p> <p>[検討課題] 労務管理、職員の健康管理、メンタル対応、福祉厚生などの体制を充実させ、また、その対象を広げるとともに取り組み内容の更なる周知を図るなどして、その活用や効果を上げることも必要であろう。 そして、それが事業所の魅力として現れることで、不足する人材、就労内容、職員の就労意欲などにも効果をもたらすと思われる。</p>
		(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b)	<p>□ 76 組織として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。</p> <p>□ 77 個別面接を行う等組織の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。</p> <p>□ 78 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。</p> <p>□ 79 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。</p> <p>□ 80 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] 定期的な個人面談は実施しているものの、個々の職員の目標管理の制度は構築されていない現状である。</p> <p>[検討課題] 事業所の理念・方針に応じた必要なスキルなどを基にした目標管理シートを作成するなどすると、職員自身で必要な研修やレベルを理解することも容易であろう。 結果として、年度ごとのそれらに基づいた内部・外部の研修計画の策定も、効果を意識した実行性のあるものとなり、各職員の個性を活かし、併せて、専門性を高める更なる研修・育成計画の充実・策定・実施も容易と思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 81 組織が目指す福祉サービスを実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。 <input type="checkbox"/> 82 現在実施している福祉サービスの内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、組織が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。 <input type="checkbox"/> 83 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。 <input type="checkbox"/> 84 定期的に計画の評価と見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 85 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<p>[取り組み状況] 職員行動規範から目指す職員像は推測できる。 また、初任者研修や内部研修、外部研修での報告なども積極的に行われている。</p> <p>[検討課題] 期待する職員像を具体的に明文化し、法人としての職員の指針となるように周知するとともに、法人の研修体系の階層別、分野別での整備、計画に基づいた実施で、各職員の履歴を把握するなど、再雇用へも活かせる仕組みなどへ発展させることも可能であろう。 また、知っている事、理解している事、実践できる事の意味を各職員が自覚できるような取り組みが進むと、研修の効果も更に高まると思われる。</p>
		③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 86 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 87 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。 <input type="checkbox"/> 88 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 89 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。 <input checked="" type="checkbox"/> 90 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		
		(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b)	<input type="checkbox"/> 91 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 92 実習生等の福祉サービスの専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。 <input type="checkbox"/> 93 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。 <input type="checkbox"/> 94 指導者に対する研修を実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 95 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	<p>[取り組み状況] 法人本部において実習生の受け入れ手続等を行っている。</p> <p>[検討課題] 法人としての受け入れの基本姿勢を明文化し、実習プログラムや実習のしおりに沿って実習生を受け入れ、積極的に福祉サービスに関わる専門職の育成に取り組んだり、終了後に実習生等の報告書などで現場職員が日々の実践の振り返りが可能となる仕組みとするなど、それぞれがギブ&ギブの恩恵を得られるような仕組み作りが期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
	3 運営の 透明性の 確保	(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b)	<p>■ 96 ホームページ等の活用により、法人、福祉施設・事業所の理念や基本方針、提供する福祉サービスの内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p>■ 97 福祉施設・事業所における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。</p> <p>□ 98 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。</p> <p>□ 99 法人（福祉施設・事業所）の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人（福祉施設・事業所）の存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p>■ 100 地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p>	<p>[取り組み状況] 法人のHPを活用して事業所の紹介が行われているものの、その内容についての積極性は少ないと感じる。</p> <p>[検討課題] 定期的な利用者調査や自己評価、第三者評価の各結果、苦情・相談等に関する回答など、HPや広報誌等でのプロセスを含めた積極的な公開を期待したい。 また、積極的な公開を透明性の確保だけに留めることなく、人材採用など、現状の課題解決に結びつく内容にしたり、今後の障がい者施策についての法人、事業所としての見解など、公開内容の見直し・充実も期待したい。</p>
			② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b)	<p>■ 101 福祉施設・事業所における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。</p> <p>■ 102 福祉施設・事業所における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p>■ 103 福祉施設・事業所における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。</p> <p>□ 104 福祉施設・事業所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p>□ 105 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。</p> <p>■ 106 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p>	<p>[取り組み状況] 事務・経理・取引等に関するルールや、職務分掌・権限・責任が明確に文書化されており、それに基づいて事業所での処理がなされている。 また、顧問税理士からの指摘等による改善も速やかに行うことで、法人組織としての運営の公正性・透明性の確保に努め、福祉監査、指導や指摘事項に対しても真摯に受け止め改善に取り組んでいる。</p> <p>[検討課題] 指導や指摘事項に関しては、全職員で情報を共有して改善に取り組むことで意識も高まり、更により良い福祉サービスの提供に繋がると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
	4 地域との交流、 地域貢献	(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a)	<input checked="" type="checkbox"/> 107 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input checked="" type="checkbox"/> 108 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で利用者に提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 利用者の個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 110 福祉施設・事業所や利用者への理解を得るために、地域の人々と利用者との交流の機会を定期的に設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 利用者の買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の利用者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>職員行動規範には、利用者が安心して暮らせる地域づくり、環境づくりを目指すことと、地域からの協力による臨時、定期的展示会が各所で開催されている。</p> <p>また、意思疎通が困難な利用者に応じつつ、リスク管理を意識した外出支援も多く取り入れている。</p> <p>今後も生活の幅を意識した、日中活動の更なる取り組みも推測が可能である。</p>
			② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b)	<input type="checkbox"/> 112 ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 113 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 114 ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している <input type="checkbox"/> 115 ボランティアに対して利用者との交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 116 学校教育への協力を行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>有償、無償のボランティアの受け入れはあるものの、その受け入れ体制は整っていない現状である。</p> <p>[検討課題]</p> <p>ボランティアの受け入れや地域の学校との協力・連携を更に進めて、利用者の生活の幅の広がりや目指している安心して暮らせる地域づくりに向けての積極的な取り組みを期待したい。</p>
		(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b)	<input type="checkbox"/> 117 当該地域の関係機関・団体について、個々の利用者の状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。 <input checked="" type="checkbox"/> 119 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 120 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 121 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、利用者のアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<p>[取り組み状況]</p> <p>地域の福祉施設、行政等の関係機関で構成される自立支援協議会に参加し、定期的な連絡会による情報の交換、共有、課題を把握し、出された情報や課題をスタッフ会議で報告している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>関係機関等からの情報や課題について、事業所としての取り組みの検討を進め、安心して暮らせる地域づくり、環境づくりへの具現化も容易と思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	b)	<input type="checkbox"/> 122 福祉施設・事業所のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 123 福祉施設・事業所の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。 <input type="checkbox"/> 124 福祉施設・事業所の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 災害時の地域における役割等について確認がなされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 126 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>10年ほど続く創作活動の墨あそび、絵、折り紙、裁縫等の作品をぽっぽあーと展として、公共施設、レストラン、病院等に展示するなど、長年の展示場所の開拓で多くの場所で住民が目にするのが可能である。 また、展示場所への見学や、地域の文化祭にも出展して、利用者に対する地域の理解を深めている。 なお、災害時には地域への協力について具体的に防災計画に記載したり、地域からの協力体制作りも進め始めている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>来所者を増やすなど、より積極的な取り組みで、利用者と地域住民との交流、住民の施設利用等が進むことを期待したい。</p>
			② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b)	<input type="checkbox"/> 127 福祉施設・事業所の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 128 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 129 地域住民に対する相談事業を実施するなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 130 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 131 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 <input type="checkbox"/> 132 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>地域の福祉ニーズに応じた公益的事業、活動については、法人本部が中心となり行っており、事業所としての取り組みは消極的と感じる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>自立支援協議会等への参加による情報交換や連携はなされているものの、そこで把握したニーズに応える事業所としての具体的な取り組みの始まりも期待したいところである。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
Ⅲ適切な福祉サービスの実施	1利用者本位の福祉サービス	(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	b)	<p>■ 133 理念や基本方針に、利用者を尊重した福祉サービスの実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p>■ 134 利用者を尊重した福祉サービスの提供に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。</p> <p>■ 135 利用者を尊重した福祉サービス提供に関する基本姿勢が、個々の福祉サービスの標準的な実施方法等に反映されている。</p> <p>■ 136 利用者の尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。</p> <p>■ 137 利用者の尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。</p>	<p>[取り組み状況] 利用者を尊重すると謳った理念の下に、倫理綱領、職員行動規範を定め、事業所内に掲示している。また、これらを携帯用リーフレットとして職員に配布し、携帯することで、いつでも確認できる様にしている。</p> <p>[検討課題] 職員の理念の共通理解とその意識付けを図る仕組みは理解できる。しかし、採用年数に応じた次のステップの検討や、それを人事考課に活かす取り組みなどへ進化させるなどすると、利用者を尊重したサービスの質の向上も更に期待できると理解したい。</p>
		(2) 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	b)	<p>■ 138 利用者のプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p>■ 139 利用者の虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p>■ 140 利用者のプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、利用者のプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。</p> <p>■ 141 一人ひとりの利用者にとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、利用者のプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。</p> <p>□ 142 利用者や家族にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。</p> <p>■ 143 規程・マニュアル等にもとづいた福祉サービスが実施されている。</p> <p>■ 144 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。</p>	<p>[取り組み状況] 虐待防止マニュアルは昨年6月に改定して体制の整備を行い、人権倫理委員会、人権倫理責任者、人権倫理事案確認委員会が設置され、その具体的な取り組みとしては、理念、倫理綱領、職員行動規範の周知、研修の実施等が上げられている。 また、虐待セルフチェックを行い、利用者の人権尊重の啓発もしている。</p> <p>[検討課題] 権利侵害はどの福祉施設においても起こり得るものであり、常に職員の意識付けを徹底する取り組みを継続して、利用者の尊厳に配慮したサービスの提供に期待したい。 また、事例を基に、なぜ起きるのかや、自施設はどうかとの検討を進めて、積極的な発生要因の排除も必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。	① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	b)	<p>■ 145 理念や基本方針、実施する福祉サービスの内容や福祉施設・事業所の特性等を紹介した資料を、公共施設等の多くの人が入手できる場所に置いている。</p> <p>■ 146 組織を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p>■ 147 福祉施設・事業所の利用希望者については、個別にいていねいな説明を実施している。</p> <p>■ 148 見学、体験入所、一日利用等の希望に対応している。</p> <p>■ 149 利用希望者に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p>	<p>[取り組み状況] 法人HPには理念、基本方針、各事業所の特色と目的、活動の様子、一日のおもな流れを公開している。 また、パンフレットは写真や創作活動の内容がわかりやすく説明されたものとなっている。 そして、利用希望者には、必ず体験利用をしてもらい、事業所を理解してからの利用となっている。 なお、重要事項説明書、契約書等はルビをつけ、要点を理解しやすい様に平易な文章に変えるなど、利用者の理解が深まるよう取り組んでいる。</p> <p>[検討課題] 利用開始のスタートにおいては、説明の際のガイドラインを定めるなど、読みやすい事と理解しやすい事との違いを意識した、利用者の意思決定が更に容易になるような取り組みも期待したい。</p>
	② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。		b)	<p>■ 150 サービス開始・変更時の福祉サービスの内容に関する説明と同意にあたっては、利用者の自己決定を尊重している。</p> <p>■ 151 サービス開始・変更時には、利用者がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。</p> <p>■ 152 説明にあたっては、利用者や家族等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。</p> <p>■ 153 サービス開始・変更時には、利用者や家族等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。</p> <p>■ 154 意思決定が困難な利用者への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。</p>		
	③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。		b)	<p>■ 155 福祉サービスの内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。</p> <p>□ 156 他の福祉施設・事業所や地域・家庭への移行にあたり、福祉サービスの継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。</p> <p>■ 157 福祉サービスの利用が終了した後も、組織として利用者や家族等が相談できるように担当者や窓口を設置している。</p> <p>□ 158 福祉サービスの利用が終了した時に、利用者や家族等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。</p>	<p>[取り組み状況] 他事業所と併用利用している方が多く、変更・移行の際はケア会議が行われている。</p> <p>[検討課題] サービスの利用が終了した後も、本人や家族等に対しての相談受付の体制があり、それについての説明文書の配布など、利用者との契り、生活の継続性を意識した体制を期待したい。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(3) 利用者満足の上昇に努めている。	① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b)	<p>■ 159 利用者満足に関する調査が定期的に行われている。</p> <p>■ 160 利用者への個別の相談面接や聴取、利用者懇談会が、利用者満足を把握する目的で定期的に行われている。</p> <p>■ 161 職員等が、利用者満足を把握する目的で、利用者会や家族会等に出席している。</p> <p>□ 162 利用者満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、利用者参画のもとで検討会議の設置等が行われている。</p> <p>■ 163 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。</p>	<p>[取り組み状況] より良いサービスを目指し、利用者満足度調査を2年に1回行い、結果を報告している。 また、希望者には個人面接を行ったり、月1回の「みんなのはしあい」を開催したりと、利用者が意見を出し合う場が設けられている。 なお、家族会等はない。</p> <p>[検討課題] 満足度調査から出された満足度、意見、要望等は職員の共通の理解の下での改善への取り組みとすることが期待される。</p>
		(4) 利用者が意見を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b)	<p>■ 164 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。</p> <p>■ 165 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を利用者等に配布し説明している。</p> <p>■ 166 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、利用者や家族が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。</p> <p>■ 167 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。</p> <p>■ 168 苦情内容に関する検討内容や対応策については、利用者や家族等に必ずフィードバックしている。</p> <p>□ 169 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た利用者や家族等に配慮したうえで、公表している。</p> <p>■ 170 苦情相談内容にもとづき、福祉サービスの質の向上に関わる取組が行われている。</p>	<p>[取り組み状況] 提供するサービスに関する利用者からの要望や苦情について、苦情申し立て先として、苦情窓口担当者、第三者委員を設置し、その仕組みを重要事項説明書等で説明するとともに、事業所内にも掲示している。 なお、その仕組みの活用や機能についての意識から、信頼の獲得や質の向上への効果は少ないと感じる。</p> <p>[検討課題] 全職員に苦情解決の仕組みと第三者委員の役割の理解をすすめて、委員との交流の機会を増やして、一緒に活動や話す機会を設けるなど、身近な人であるとの利用者の意識を高めたり、委員からの具体的意見を求めたりと、質の向上に資する取り組みへと進化させることも必要と思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	b)	<input type="checkbox"/> 171 利用者が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。 <input type="checkbox"/> 172 利用者や家族等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 173 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>定期的な利用者満足度アンケートの実施、希望者には個人面談を行い、また、日々の支援の中で利用者の相談しやすい場所で話を聞く様にしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>口頭、日々の連絡帳、申し出用紙等、各種の入手ルートからの内容、検討内容、対応策、行政への報告の有無、公表の有無、事後の確認などを年度ごとに整理するなど、受付担当者の責務と意識して提供するサービスの質の向上に役立てることが期待される。</p> <p>また、相談窓口等、方法や相手先を選択できることを周知することで、利用者等にとってより相談しやすい環境づくりと理解したい。</p> <p>そして、どの職員にも気楽に相談や意見が言える、利用者の思いや悩みを事業所全体で受け止めることが可能となる更なる環境の整備を期待したい。</p>
			③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b)	<input type="checkbox"/> 174 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。 <input type="checkbox"/> 175 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 176 職員は、日々の福祉サービスの提供において、利用者が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 177 意見箱の設置、アンケートの実施等、利用者の意見を積極的に把握する取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 178 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 179 意見等にもとづき、福祉サービスの質の向上に関わる取組が行われている。	
		(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 180 リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 181 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 <input checked="" type="checkbox"/> 182 利用者の安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 183 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 184 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 185 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>安全委員会が設置され、事故報告、ヒアリハット報告を徹底し、うっかりミスの報告もある。</p> <p>前年に比べてヒアリハット報告が多くなり、職員の安心、安全な環境への意識の高まりと理解できる。</p> <p>[検討課題]</p> <p>職員のヒアリハットと事故の区分についての理解に差異があると思われる。</p> <p>それぞれの分析と検証を進め、周知することで、安心、安全な質の高い福祉サービスの提供につながると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 186 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 ■ 187 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。 ■ 188 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 ■ 189 感染症の予防策が適切に講じられている。 ■ 190 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。 ■ 191 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>感染症対策マニュアルが整備され、安全衛生委員会、看護師の下に感染症対策に取り組み、細心の注意を払い、安心と安全に努めている。</p> <p>また、看護師による嘔吐物処理等の職員向けの研修会も開催されている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>昼食時の職員の衛生管理と感染症蔓延防止のための意識も高まって改善も進み、手洗いの徹底など、徹底した更なる衛生管理も期待したい。</p>
			③ 災害時等における利用者の安全確保のための取組を組織的にしている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 192 災害時の対応体制が決められている。 ■ 193 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、福祉サービス提供を継続するために必要な対策を講じている。 ■ 194 利用者及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 ■ 195 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。 ■ 196 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。 □ 197 防犯に係る利用者等の安全の確保対策を検討し、実施している。 	<p>[取り組み状況]</p> <p>災害、防災マニュアル手順書を整備し、災害時における組織体制もできており、年2回の防災訓練を行い、速やかな避難ができるように避難行動要支援者リストを作成し、利用者に応じた対応を可能としている。</p> <p>避難用出口は各所スロープになっており、非常時に向けた発電機の設置、トイレ用品や食糧等の備蓄も徐々に進めている。</p> <p>また、地域の防災会議では、災害時での施設として協力できる内容も明示している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>避難防災訓練の際には家族や地域の方の参加を促し、施設外の方からのご意見を伺うなど、万全の体制づくりが期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
	2 福祉サービスの質の確保	(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	b)	<p>■ 198 標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p>■ 199 標準的な実施方法には、利用者の尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p>■ 200 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p>□ 201 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	<p>[取り組み状況] 理念、行動規範、運営規程、各種マニュアルが整備され、それらを研修会やスタッフ会議で周知に努めている。 また、安心・安全の留意点として、利用者個別の移動、食事、排泄等の個人対応の支援マニュアルにより、一人ひとりへの対応が解りやすいものとなっており、毎日の振り返りや反省会を行い、そこで出された課題等を後日のスタッフ会議の議題として、その結果により個別支援マニュアルの改訂もしている。</p> <p>[検討課題] 標準的な実施方法についての見直し後は周知度を高め、職員共通の理解とバラツキのないサービスの提供を期待したい。</p>
			② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b)	<p>■ 202 福祉サービスの標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。</p> <p>■ 203 福祉サービスの標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。</p> <p>■ 204 検証・見直しにあたり、個別支援計画の内容が必要に応じて反映されている。</p> <p>■ 205 検証・見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	① アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	b)	<p>■ 206 個別支援計画策定の責任者を設置している。</p> <p>■ 207 アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。</p> <p>□ 208 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。</p> <p>■ 209 個別支援計画には、利用者一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。</p> <p>□ 210 個別支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、利用者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。</p> <p>■ 211 個別支援計画どおりに福祉サービスが行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。</p> <p>■ 212 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な福祉サービスの提供が行われている。</p>	<p>[取り組み状況] 定められた手順によりアセスメントが行われ、利用者の身体状況、生活状況、ニーズを把握し、個別支援計画がサービス管理責任者によって作成され、本人、家族の同意を得て実施が進んでいる。 見直しは半年ごとに行い、問題行動、支援困難ケースについては、随時、ケア会議を開催して対応し、内容は回覧を通して職員の共有へと進めている。</p> <p>[検討課題] 個別支援計画の内容は利用者本人が自分の事として理解できるようにわかりやすい言葉とするなど、意思決定支援のプロセスを意識した工夫も必要と思われる。</p>
			② 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	b)	<p>■ 213 個別支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、利用者の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。</p> <p>■ 214 見直しによって変更した個別支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。</p> <p>□ 215 個別支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。</p> <p>□ 216 個別支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、福祉サービスを十分に提供できていない内容(ニーズ)等、福祉サービスの質の向上に関わる課題等が明確にされている。</p>	<p>[取り組み状況] 全職員が最低一人のケースを担当しており、見直しに当たっては日々の振り返りなどを話し合い、共有化を深めて作成が進められている。</p> <p>[検討課題] 個別支援計画は長期的な目標を持ったスモールステップの導入などで、利用者が見通しを持ち易く、関係職員が事後の評価・見直しに活かし易く、支援の幅が広がるような工夫なども期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 217 利用者の身体状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって把握し記録している。 ■ 218 個別支援計画にもとづくサービスが実施されていることを記録により確認することができる。 □ 219 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。 ■ 220 組織における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。 ■ 221 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。 ■ 222 パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、事業所内で情報を共有する仕組みが整備されている。 	<p>[取り組み状況] 事業所の日々の記録を業務日誌に記録し、利用者の健康状況、生活状況、活動状況はケース記録に記録している。 その記録や情報は回覧により全職員が確認できるようにしているものの、全職員の回覧・周知の終了までに時間を要していると感じる。</p> <p>[検討課題] 速やかな情報の共有により、バラツキのない日々のサービスの提供と質の向上を期待したい。</p>
			② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 223 個人情報保護規程等により、利用者の記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。 ■ 224 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。 ■ 225 記録管理の責任者が設置されている。 ■ 226 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。 ■ 227 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。 ■ 228 個人情報の取扱いについて、利用者や家族に説明している。 	<p>[取り組み状況] 個人情報保護指針を制定し、個人情報の取り扱いについての規定を定め、法人HPにて公表している。 利用者、家族には重要事項説明書にて説明すると同時に、個人情報使用同意書により同意を得て、サービス提供を行う上での他事業所、医療機関等との連絡調整や、行政・関係機関からの情報提供を要請された場合の情報提供を行っている。</p> <p>[改善課題] 個人情報保護法は情報の保護と開示であり、利用者・家族へも開示についての説明は期待したい。</p>